

平成28年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	データベース2(Database 2)	授業コード	C165751
担当教員名	濱田 大助	科目ナンバリングコード	
配当学年	2	開講期	後期
必修・選択区分	選択(教職必修)	単位数	2
履修上の注意または履修条件	特にデータベース1の継続科目となりますので、SQLの基本から実施していきます。基本的なPCの操作(ソフトウェア起動終了、日本語入力、ファイル処理等)と学内LANの利用(Webによる情報収集・および操作)メールソフト(スマートフォン含む)の操作ができること。		
受講心得	<p>欠席した学生はその授業で出された課題の回答、レポートの提出はできません。コンピュータを使用するIDとパスワードを確認しておく。 体調不良の場合は遠慮せず申し出ること。</p> <p>教室内では以下の事項を禁止します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飲食、喫煙、緊急以外の携帯電話操作 ・指示をしていない「話し合い」 ・講義に関係の無いサイト、漫画、雑誌の閲読 ・他の講義の演習課題の作業等 ・その他、直接講義と関係の無い事項 ・帽子、サングラス、イヤホン(PC接続含む)の着用 		
教科書	<p>データベースシステム 北川博之著 昭晃堂</p> <p>オープンソースデータベース標準教科書</p>		
参考文献及び指定図書	データベースシステム 昭晃堂(北川博之著)		
関連科目	<p>情報ネットワーク、情報セキュリティ、ハードウェア実験、マルチメディア演習、ドキュメントデザイン1、ドキュメントデザイン2、プログラミング応用、プログラミング1、プログラミング2</p> <p>オフィスアワー</p>		

授業の目的	情報化社会の急速な発展の中、今日の情報産業の生産物はさまざまな人間の社会活動や情報技術との相互作用によってもたらされるシステム?情報システム?ととらえることができます。リレーショナル型データベースとその言語であるSQL(エス キュー エル)を学習し、実際にデータベースを構築、利用し、情報検索・情報発信の実習を通して理解を深めます。社会組織において情報を効率よく利用できるようにした情報システムを如何に構築し如何に活用していけばいいのかを議論します。
授業の概要	演習を交え、インターネットやイントラネットに存在する情報システムの仕組みを理解します。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第1週: オリエンテーション 確認テスト	配布資料・WEBにて提示
第2週: 復習 データベース言語SQL(範囲は確認テストによる)	配布資料・WEBにて提示
第3週: 復習 データベース言語SQL(範囲は確認テストによる)	配布資料・WEBにて提示

第4週： SQLによる集合関数		配布資料・WEBにて提示
第5週： 集合関数の応用例		配布資料・WEBにて提示
第6週： データモデル		配布資料・WEBにて提示
第7週： これまでのまとめと理解度テスト		配布資料・WEBにて提示
第8週： スキーマ と ビュー		配布資料・WEBにて提示
第9週： スキーマ と ビュー（郵便番号検索のデータベース作成）		配布資料・WEBにて提示
第10週： データベースの設計		配布資料・WEBにて提示
第11週： データベースの設計例		配布資料・WEBにて提示
第12週： SQL権限付与と表の変更		配布資料・WEBにて提示
第13週： データベースシステムの運用と管理		配布資料・WEBにて提示
第14週： データベースシステムの運用と管理		配布資料・WEBにて提示
第15週： これまでのまとめと理解度テスト		配布資料・WEBにて提示
第16週： 期末試験		
授業の運営方法	(1) 授業の形式	「演習等形式」
	(2) 複数担当の場合の方式	
	(3) アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
地域志向科目	該当しない	
備考	RDBサーバは、開講期間中アクセス可。(セキュリティ面で学内に限る) 自宅での自学・自習等にRDBソフトを紹介と配布	

○単位を修得するために達成すべき到達目標

【関心・意欲・態度】	
【知識・理解】	データベースの生まれた背景を理解する。 データベースがファイルシステムと異なる事を理解する。
【技能・表現・コミュニケーション】	関係データベースの構成を理解する。 標準SQLの利用操作およびネットワークOSの仕組みを理解する。
【思考・判断・創造】	SQLの挙動について予測・理解する

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等 (テスト)	レポート・作品等 (提出物)	発表・その他 (無形成果)	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		15点	15点	
【知識・理解】 ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。	50点			
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。	10点			
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。	10点			
<p>(「人間力」について)</p> <p>※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。</p>				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	
発表・その他 (無形成果)	